G5

大阪市の中崎町は都心にありながら情緒の残る下町である。
「G5」は住事務を兼ねた住居で築100年の長屋を天井と梁
柱を残して全面改装された。格子の塗られた扉を開けると
お香がきく。敷地は10坪ながら光と水をふんだんに取り入れ
天井高13メートルの吹き抜けと中庭に池を配した空間はさながら
里中の天池のようだ。
黒く塗られた木製の建具や家具と壁や床のナチュラルな白さが
スッキリとしたコントラストを見せている。
この空間に広がりと一体感を持たせているのが床のタイルである。
玄関からキッチン、居間、そしてガラス扉を抜んで池のある庭まで
サイザル調のタイルが敷き詰められ、内と外を繋いでいる。
サイザル麻特の網目模様がタイルに動物のようなテクスチャーを
与え建具や家具とも調和してモダンなジャポニズム空間を創り出した。
この住まいは空間プランナーとしての実験住宅でもあるため、建具に
自ら墨汁を塗り仕上げるなどユニークな試みもされている。
昼と夜で異なる照明の演出、室内外の植栽、秋焼の陶器類、
池に泳ぐ金魚など生活感のない住空間が目指された。

■改装前写真